

そよ風

第7号

今治市立立花中学校

「ユニバーサルデザイン」について知っていますか？

○ どちらがユニバーサルデザインかな？

A



B



○ ユニバーサルデザインの7原則

1. どんな人でも公平に使えること
2. 使う上での柔軟性があること
3. 使い方が簡単で自明であること
4. 必要な情報がすぐに分かること
5. うっかりミスを許容できること
6. 身体への過度な負担を必要としないこと
7. アクセスや利用のための十分な大きさと空間が確保されていること

答 B

○ ユニバーサルデザインの身近な事例

・ トイレ



ユニバーサルデザインの例として「多機能トイレ」というものが挙げられます。おそらく誰もが一度は目にしたり入ったりしたことがある、内部がとても広く手すりやベビーシートなども装備されているあのトイレのことです。多機能トイレはもともと、車いす利用者やオスメイト対応設備を必要とする方が、円滑かつ快適にトイレを利用できるように整備されたものです。しかし、体の不自由な方ばかりでなく高齢者や赤ちゃん連れ、けがをされている方などにとっても利用しやすいようデザインが工夫されています。

具体的には、車いす利用者がトイレ使用に際して回転できる十分なスペースを設けること、視覚障がい者のために「洗浄ボタン」「ペーパーホルダー」「呼び出しボタン」の配置が決まっていること、

高齢者やオストメイト、子連れなど様々な方が利用しやすいようにベッド、乳児用いす、おむつ交換台や汚物流しなどの設置がされていることです。

・ シャンプーボトル

シャンプーボトルの側面のギザギザは、ユニバーサルデザインの一例です。シャンプーとリンスを間違えないように、シャンプー容器の側面にギザギザがついています。またポンプ上部にも同じようにギザギザがついています。このギザギザは「洗髪時に、眼をつぶっていても区別がつくと良い」「目が不自由なので、何か工夫してほしい」との声に 1991 年、日本の大手消費財メーカーにより開発され、発売されました。目の不自由な人、近視や遠視で入浴中はメガネやコンタクトレンズを外す人、洗髪中に目を閉じることが多い人、あらゆる人に配慮されたデザインです。こうしてシャンプーのギザギザはユニバーサルデザインの代表例として知られるようになりました。



・ 信号機



最近街角に設置されている信号機も実はユニバーサルデザインとなっています。ユニバーサルデザイン式の信号機は、音や色が以前の信号機と違っていています。以前の信号機は青に変わっても視覚障がい者の横断者にわからないものが多かったですが、最近の信号機は青になると設置されているスピーカーより、信号が変わった旨を知らせる音が流れるため、視覚障がい者でも、「あ、青になった」とわかるようになりました。また、色についても、以前の青色信号は「緑色」でしたが、最近では色弱者にもわかるように「青みどり色」になりました。この色は

赤信号や黄信号と見分けやすい色ですので、色弱者も信号の識別がしやすくなりました。

・ 紙幣



実は、小さくて薄い、紙幣にもユニバーサルデザインは隠されているのです。紙幣には、表面左右に何かマークのようなものがついているのですが、この形によって、視覚障がい者がお金を判別することができるのです。識別マークの形は 1 万円が L 字、5 千円が八角形、千円が棒線となっていて、触るだけで紙幣を判別できるようになっています。硬貨には識別マークはありませんが、硬貨自体の大きさと中心の穴で判別できるようになっています。硬貨は紙幣と比べて小さく、識別マークを入れることが困難なため、大きさや中心の穴で判断することになっています。ただし、

現在の紙幣の識別マークは以前のものに比べ、凸凹が浅くなり、視覚障がい者が判別しにくいいため、今後の改善が求められています。

○ ユニバーサルデザインを理解して、みんなが住みやすい社会にしていこう

障がいの種類や障がいの程度は人によって違い、「障がい者」とだけ表現するには良くない場合もあります。「誰もが使いやすいデザイン」と呼ばれる「ユニバーサルデザイン」は、本当に誰でも使いやすいものなのか、使う人によっては使いづらいものではないのか。それを考えていかなければ本当の「誰でも使えるデザイン」とは言えないのではないのでしょうか。こういったユニバーサルデザインの本質は、「誰かひとりのためであっても、その人だけに対して真剣に考えられたデザイン」として、現代の社会情勢に合わせて再検討する必要があると思います。